

# 令和6年度 第3回 交野市地域公共交通会議 議 事 録

[日時] 令和6年11月27日(火) 午前10時00分～10時50分

[場所] 交野市役所 別館3階中会議室

1. 開 会

2. 自家用有償旅客運送の運行計画案について

3. そ の 他

4. 閉 会

交野市地域公共交通会議 名簿

No	区分	氏名	所属	備考
1	学識経験者	熊谷 樹一郎	摂南大学理工学部都市環境工学科教授	会長
2		井上 学	龍谷大学文学部歴史学科日本史学専攻 教授	副会長
3	地方運輸局長が 指名する者	中村 洋一	大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送）	
4		釈迦戸 久夫	大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画）	
5	交通事業者	山本 英幸	京阪バス株式会社経営企画室 代表部長	
6		谷川 嘉規	日本タクシー株式会社寝屋川総合営業所長	
7	労働組合	朝田 雅也	京阪バス労働組合副書記長	欠席
8		小川 敬二	日本タクシー労働組合執行委員長	
9	道路管理者	八尾 信彦	大阪府枚方土木事務所参事兼地域支援・企画課長	欠席
10		今井 真之	交野市都市整備部道路河川課長	
11	交通管理者	三谷 剛史	交野警察署交通課長	
12	市民	奥田 多喜男	松塚区長	
13		玉井 八恵子	公募委員	
14		堀内 治	公募委員	欠席
15	市長が 指名する者	井本 昌彦	大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課課長補佐	
16		中野 貴雄	交野市危機管理室次長	
17		山埜 勝哉	交野市企画財政部次長	
18		藤原 功	交野市福祉部次長	

※傍聴者：4名 報道関係者：1名

## 【議事内容】

### 1. 開会

(事務局) 本日の会議に出席委員はただいまのところ 18 名中 15 名となっております。交野市地域公共交通会議設置条例の規定により過半数以上の出席となっており、会議が成立していますことを報告いたします。

### ○市長あいさつ

(市長) 本日は、地域公共交通会議の開催に際しまして、お越しいただいたすべての皆様に心から感謝を申し上げます。第 2 回地域公共交通会議におきましては、自家用有償旅客運送としてお認めくださったことに深く感謝しております。その考えに基づいて、本市におきましては、本日は運行計画（案）を皆様にお示ししたいと考えているところでございます。

交野市といたしましては、いまある京阪バス様の路線は、できるだけ近いかたちで維持をしたいと考えています。本市の基本的な考え方としては、意地でも市民の皆様の足は守っていきたいと考えているところであり、これまでしたら、民間のバス事業者による営利目的でのバス事業となっていたところでございますが、バスの運転手不足という時節柄等も考えますと、やはり公共が一定の責任を持って、国に対しては地方自治体が一定の責任を持って、路線のところについては確保していくべきだと考えています。

この間の地域でのタウンミーティングにつきましても、市長部局のほうにて重ねてきたわけではありますけれども、ただ、ご意見をいろいろもらう中で、市の動きを評価する意見もあれば、自分の家の前まで迎えに来てほしいと路線バスでは難しい要望をおっしゃる方もいらっしゃったのは事実でございます。

今の交野市といたしましては、オンデマンド交通を今すぐやってしまうと、通勤・通学をしている多数の方を切り捨てることに繋がらざるを得ないことから、まずは一旦、定時定期路線のところにて路線は確保して、その後に改めて、市民の皆様のご意見・意向を聞きつつも改善を図っていく方向性で考えているところでございます。

本日のご審議にあたり、運行計画（案）を示させていただきますので、皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

(事務局) それでは、以降の議事については、熊谷会長にお願いしたいと思います。

(会長) 市長からのご挨拶にもありましたように、今日は自家用有償旅客運送の運行計画（案）の詳細について、皆様にご議論・ご審議をいただきたいと思っております。

本日の会議は、傍聴の申し出があったので、公開・非公開についてお諮りしたく思います。本日の会議は公開ということでご異議はございませんでしょうか。

(委員全員) 「異議なし」の声あり。

(会長) ご異議がないようですので、公開といたします。傍聴者の入室を許可いたします。しばらくお待ちください。

(傍聴者) 5 名が入室。

- (会 長) 再開いたします。事務局より注意事項の説明をお願いいたします。
- (事務局) 事前にお渡しした傍聴要領を守り、会議中は静粛をお願いいたします。  
次に、本日報道関係者からの傍聴の申出がありました。録画・録音につきましては、傍聴者同様に許可しておりませんので、よろしくをお願いいたします。
- (会 長) それでは、案件ごとに議事を進めていきたいと思っております。

## 2. 自家用有償旅客運送の運行計画案について

(事務局) 資料1・2により説明

(会 長) ご説明ありがとうございます。説明にありましたとおり、自家用有償旅客運送を開始するにあたりましては、この地域公共会議等で、地域における関係者の協議が調うことが条件になっているようでございます。皆様からご意見・ご質問を頂けたらなと思っております。皆様からご質問やコメントをいただけますでしょうか。

(委 員) 前回の交通会議で、京阪バスがなくなるということで、3月23日以降どうしよう、と地域に同様が走っていましたが、各地域でタウンミーティングがありまして、星田山手については、10月18日に丁寧な説明をいただいて、すぐ代替、対応していただけるということで「よかったね、とりあえずバスが走るんや」と安堵が広がりました。

その時の説明で、運賃が200円で、ICOCAカードが使えないのだったら、100円玉を持って乗車しないといけないという話にすぐなっています。家の前まで迎えに来てくれというのは星田山手のタウンミーティングで出たのですが、それは無理やでということ。とりあえず、すぐに対応していただけるということで、安堵感があります。

今日たまたま星田七丁目からここまでバスに乗ったのですが、初めて満席でした。車いす席2席を空けていましたので、途中から乗ってこられた方は立っている方もおられました。高齢化によって、バスの利用が増えているということだと思います。初めてああいった経験をしました。各停留所で乗ってこられます。

新しいルートは、京阪交野タウンではなく、河内磐船駅を経由するということです。今日は、ゆうゆうセンターのボランティアセンターに行かれる方とバス停で一緒でした。今は、私市三丁目まで降りて歩いているのですが、新しいルートになったら、河内磐船まで乗れますので、ぜひ実現していただきたいと思っています。京阪交野タウンは、乗降客がいません。何回か乗っていますが、本当にいいです。なぜこういうルートを走っているかと思えます。市民としては、ルートが復活するのは大歓迎です。

(会 長) 実際の経験を共有いただき、ありがとうございます。河内磐船駅のほうには、ゆうゆうセンター等があるので、時代に応じた路線なのかなと感じました。

今回は、運行計画(案)ということですので、運輸支局からコメント等をいただけますでしょうか。

(委 員) 特段何かということはないですが、皆さまでこちらのルート等をご検討の上、ご承認いただければよいのかなと思っております。

- (委員) 資料1の13頁の定期券について、タウンミーティングでは話が出ていなかった  
ので。タウンミーティングのときに、会社から定期券分の交通費が支給されてい  
る方もいるので、どうなるかという質問が出ていましたが、定期券は出るのです  
か。
- (事務局) かなりタイトなスケジュールの中というところで、導入できるかどうかとい  
うところでありますが、できる限り、3月23日に切れ目なく導入ということで進め  
させていただいておりますが、保証されたものではないので、その方向で考えて  
いるということで、ご理解いただければと思います。
- (市長) その件に関しましては、星田山手等でもタウンミーティングでご意見を賜りま  
したので、対応することといたしましたので、ご理解賜りますようお願い申し上  
げます。
- (会長) 定期券はかなり重要な点でございます、谷川委員につきましては、既に寝屋  
川市の「ねやBUS」で経験があるということなので、コメントを頂きたい。
- (委員) 会長から紹介がありましたように、この4月から寝屋川市が3つのルートで「ね  
やBUS」を京阪バスの廃止後に運行しています。いちばん初めに問題になったの  
が、交通系ICと定期券がないため、学生が使えないということで、高校生の利用  
がほとんどありません。この交野市の対応策は素晴らしく、絶賛に値すると判断  
しております。サラリーマンからも問い合わせがあったのですが、定期券がない  
ため、通勤手当の請求ができないということで、寝屋川市でも、将来的にはIC対  
応を検討・導入しようとしているところです。交野市はこの短期間で非常によく  
練られていると評価しております。
- (会長) やはり高校生等の若い人が乗るということは大事だと感じております。副会長  
から、何かコメントがありますでしょうか。
- (副会長) 対応する時間のない中で、路線設定も大変なのですが、定期券の導入を切れ目  
なくやっていただけたのは、たいへんよいことだと思っております。若いうちか  
ら地域公共交通を使う習慣を持っていると、年を取っても使い続ける可能性が高  
まりますので、ぜひ若い世代の人たちに定期券を使っていただきたいと思いま  
す。また、定期券を買うと、バスを使い続けるので、定期的な顧客としても、たい  
へんありがたいです。都度払いにすると、別の選択肢も考えてしまうので、バス  
を選ばなくなってしまう可能性が高まるからです。そういった意味では、スタート  
の時点で定期券を設定いただいたのは、たいへんよいことと思っております。
- (会長) 私も学生時代には定期券を使い倒していたのを思い出しました。交通系ICの話  
が出ましたが、今のところの見通しは、事務局から補足説明はありますでしょ  
うか。
- (事務局) 交通系IC導入についても、現在協議を進めさせていただいているところでご  
ざいます。ただ、機器の設置等、準備に時間がかかるというところで、見通しとし  
ては6月頃を目途に導入ができればというところで調整させていただいていると  
ころでございます。
- (会長) 前向きに検討いただいているという認識かと思われま  
す。
- (委員) 100円玉等の小銭が必要なので、知らずに乗った人がいた場合、両替してあげな  
いといけないのではという話をしています。お金がないから最初からは無理、と

周りには言っている。機械の設置にはすごくお金がかかるのですよね。

(事務局) イニシャルコストはかかるという事はもちろんですが、IC 導入については、重要なのは機器設置の準備とシステム構築に時間がかかるので、6 月以降で調整させていただきます。

あと中型バスの運行については、両替機を導入できる形での調整を考えている。ワンボックス車両については、おりひめバスと同様に、両替対応はなかなか難しいという状況ですが、できるだけ使い勝手がよいように検討させていただいているところでございます。

(委員) 短期間ですごい計画が立てられて、びっくりしています。ルートはワンボックスカーと中型バスを区別されて、交通系 IC カードまで考えられています。前にも言いましたように、趣味で山に行っているもので、どうしてもローカルのバス利用が多いのですが、そのなかでは、交通系 IC カードを導入しているコミュニティバスは少ないです。それなのに、そこまで考えられていることに感謝申し上げます。

京阪バスが撤退された第一の理由は、料金や経営難ではなく、担い手不足と聞いています。その間にライドシェアなどの問題が出て、安全の担保はどこにあるのか、一生懸命に考えていたのです。しかし、それは私らの考えることではありません。

その前に、運行委託されても、ドライバーの数は同数が必要なはずです。そうしたときに、京阪バスと今度の新システムとどこが違うのかなということについて説明をお願いしたいです。同じ人数の担い手がいるのであれば、京阪バスがやめる必要はないのではないのでしょうか。車両を変えてこういうシステムにすれば、そのままいけるのではないか、それができないもとは、ドライバー不足と聞いていますから、それだけ説明をお願いしたいです。

(会長) 事務局からお答えできますか。

(事務局) ドライバー不足が京阪バスの撤退理由であることについて、今般置かれている地域公共交通の実態はひしひしと感じているところでございます。前回ご説明させていただきましたとおり、自家用旅客有償運送のご承認をいただいたなかで、ドライバーが運行できる範囲として、第二種免許に加え、第一種免許に講習を受けられた方でも運転できるように広げていただいたところがドライバー確保の一助となった大きなところかなと思います。また、正規社員だけでなく、雇用形態の違いについてもいろいろと範囲が変わってくると思っているところでございます。

(会長) 井上副会長から、何か今の件についてコメントを頂けますでしょうか。

(副会長) 会社が大きいからといって必ずしも運転士がたくさん集まるわけではありません。どの会社に行きたいかという希望があるなかで、運転エリアが限られているので規模が小さいほうが良いという方もいらっしゃいます。どうしたら必ずドライバーが集まるという公式はないでしょう。

今回は、何とか集めていただけそうな感じで考えていますが、今後も続けられるかというのは難しいものがあります。10 年運転いただけるかもしれませんし、もしかしたら 5 年くらいで辞められるかもしれません。先行きがすごく不安定な

中で、給料面をよく言われるのですが、ドライバーのモチベーションには、それ以外にも仕事をしていて楽しいという面もあるのです。今回、バスがなくなるととても大変ななかでの緊急対応というのが実情ですが、むしろ運行した後に「バス会社が変わったら、これはこれでよかった」となってほしいと思うのです。

ぜひその時に、事業者が決まりましたら、運転するのが本来業務であることは十分承知していますが、可能な限り「おはようございます」「ありがとうございます」などお声掛けがあると、バスの雰囲気よくなります。利用者の方々も降りる時に「ありがとう」「おおきに」「行ってきます」という声掛けがあると、すごくいい雰囲気になります。地域の方々も、ドライバーを応援するという気持ちで受け入れていただければ、長続きするチャンスがたくさん出てくると思います。

実際、私の住んでいる京都市内のバスは、お互いがよく挨拶をします。ドライバーも運転しながら、挨拶するのは大変だと思いますが、バスの雰囲気がよくなってきて、気持ちがいいのです。ですので、そういったことを目指すことで、新たな運行事業者が長く運転いただけるようにしていただければと思います。

(会 長)      ドライバーの確保については、人によって様々な要素があるということがございます。また、副会長から話がありましたが、関西の方がバスで挨拶する文化があると感心していたのです。こうしたことに立ち返って大切にすることもこれから大事なことなのかなと感じました。

今回のバス停の利用は、これまで京阪バスが活用されたものを利用するという事で大きな問題はないと思いますが、安全性の問題等がいろいろあると思います。警察から見たときに、どんなことに気をつけたほうがいいでしょうか。今回は、大きな問題はないということでしょうか。コメントをお願いしたいと思います。

(委 員)      今まで使っているバス停は既存で利用すると聞いています。新たなバス停をどこにするか検討されると思いますが、その都度、当署規制担当と協議していただければと思います。以前も北部巡回バスで事前に検討して、現場も実際に確認した上で設置となっています。今後も新たなバス停1つひとつをきちんと点検して、安全性を確保して場所を決められるよう、協議していきます。安全性の確保は、警察として第一に考えていますので、しっかりと検討していければと思います。

(会 長)      場所によっては、道路幅員が狭いという話が出てくるかもしれません。道路管理者から、一言いただければと思います。

(委 員)      若干ルートの変更がございますが、既存路線の継続が基本とされております。このバス路線は、道路管理者としても重要なところと考えており、今後の舗装修繕計画も含めて考えていきたいと思っています。運行計画については、特に問題がないと考えています。

(会 長)      そのほか、ございますでしょうか。

(副会長)      これから新たな事業者が入ってきますので、ドライバーも初めて運転される所が多いと思います。新たにバス形態が変わる地域では、町内会でお声掛けいただいて、なるべくバスが通る道では駐停車をやめようとか、なるべくバスが走りやすい環境を作っていこうと取り組んでいくことも、地域の協力がなくてはできないことですので、チャレンジしていただきたいと思っています。

京都府の醍醐でコミュニティバスが開始した際は、結構道が狭いので、地域の方々も駐停車をするのはやめようとか、危ないからやめておこうとか、お声掛けをすることで、バス定時運行が可能になったのです。ささやかな取組かもしれませんが、ドライバーにとっては、たいへん運転しやすくなります。できる限りで結構ですので、ぜひチャレンジしていただけるとありがたいと思います。

(会 長) ユーザー側と言うか、地域の方々の寄与の仕方もあるということですね。

停留所のことで、これまで京阪バス(株)が使われていた場所も何とか流用しようという話がありましたが、京阪バス(株)から、気をつけたほうがいい点とか、何かコメントがあれば、お願いいたします。

(委 員) この度は、私どもの路線廃止に伴いまして、このような計画を立案していただきまして、ありがとうございます。バス停の件は、路線バスと共用しない部分については大きな問題ないと思います。

特にターミナル等では、京阪バスが残るところもございます。例えば星田駅等では、新たな事業者とできる限り分離して使う等の工夫が必要かと思えます。運転手同士は、会社が違えば、ルールややり方も違いますので、そうしたことが課題になると思います。それについては、事業者が決定しましたら、交野市とも調整していきたいと思えます。

(会 長) 今度はある意味、複数の事業者が入ることになりますので、調整が必要になってくるということです。ご配慮いただけるとのことなので、このまま進めていけたらと思えます。

(委 員) 地域での受入環境を歓迎するという話が出ていました。妙見東の方に、バスが廃止になると言ったら「なんのこと、え」ということで全然ご存じない方がいらっしやいました。普段車に乗っている方では、そんな関心で、妙見東の方がバスがなくなったら一番困るのになあと、温度差があるなと思いました。平地の地域の方と山手の方との温度差があるということと、そこに住んでいる方でも、普段車を利用されている方は意識がないというか。地域で地域公共交通を守ろうという意識を育てないといけないなと痛感したところなのです。そのうえで、いろいろあって、「家の前まで迎えに来てくれないか」というのは、これからの話になる。地域公共交通、自分たちの足がなくなるということは、真剣に話し合わないといけないと痛感したのです。

(会 長) 交野市はいま苦しい状態に陥っていて、こうしたかたちで運行計画(案)がつくられたのは素晴らしいことだと思います。これをきっかけに、地域公共交通を市民、住民の方々が全体として見直す機会があるのがいちばんいいという感じもします。

5年が経てば状況も変わるという見通しです。ということは、これはスタートに過ぎないという感じもします。これから、もちろん住民、交野市、事業者も今一度振り返って、今後のことを真剣に考えていくチャンスにしていくべきかと思えます。

そのほかに何かありますでしょうか。それでは、無いようでございます。今回、事務局がお示しした運行計画(案)について、委員の皆様のご承認をいただかなければなりません。自家用有償旅客運送の運行計画(案)について、ご異議があ

るかないか、確認をしたいと思います。これまで審議いただきました運行計画(案)について、ご異議はございませんでしょうか。

(一 同) 「異議なし」の声。

(会 長) 運行計画(案)は、当会議で協議が調ったものとしたと思います。

### 3. その他

(会 長) その他について、何かありましたら、お願いいたします。

(事務局) 特にございません。

### 4. 閉会

(会 長) ないようなので、以上で本日の議事について、すべて終了といたします。本日はご参集いただきまして、また慎重なる審議を賜りましてありがとうございます。以上で本日の議事につきましては終了といたします。

以上